

Case 4

地域の特産品となる商品づくりを目指して 葉山町の夏ミカンを用いた商品開発プロジェクト



◀ 葉山町商工会関係者と試作品を前に意見交換

Step 1

三浦郡葉山町は、相模湾に面した閑静なりゾート地です。葉山町では古くから夏ミカンが栽培されてきましたが、ほとんどは各家庭で食されているのみで、一部夏ミカンワイン等の原料に利用されているほかは、十分に活用されていません。そこで、葉山町商工会では、この未利用資源である夏ミカンを用いた加工食品を葉山町の特産品として開発したいと考えていました。



Step 2

調理学研究室では、地域の特産品開発のためには、まず、その地域がどのようなところか知ることが必要と考え、葉山町の夏ミカン農家を訪問する等、葉山町に関する情報収集を行いました。そのうえで、夏ミカンの提供を受けて、さまざまな加工食品の開発を進めました。夏ミカンの果汁や果肉の特長を活かして、パン、ドーナツ、大福等多数の試作品を作りました。



Step 3

葉山町で開催された「ビッグ葉山マーケット」や横浜市中で開催された「かながわ商工会まつり」に参加し、開発食品の試食およびアンケート調査を行いました。提供した試作品はおおむね好評でしたが、アンケートで得た意見を元に、さらに工夫と改良を重ねました。今後、これらの商品が葉山町の商店等で販売されることが期待されます。



topics

本連携のパートナーは、企業ではなく商工会です。特定の企業ではなく、地域全体を考える立場の商工団体と連携することにより、単なる商品開発ではなく、地域の特産品を開発するという意識が強められ、相応しい商品提案に結びつくことが期待されます。

data

- パートナー 葉山町商工会
- 担当教員 小口悦子教授
(現代生活学部生活デザイン学科)
- 実施期間 2011年4月～2012年3月